

Title	The articular lesions and HLA in juvenile rheumatoid arthritis
Author(s)	村田, 紀和
Citation	大阪大学, 1994, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38532
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏 名	村 田 紀 和
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 1 1 1 8 3 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 6 年 3 月 15 日
学 位 授 与 の 要 件	学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 名	The articular lesions and HLA in juvenile rheumatoid arthritis (若年性関節リウマチにおける関節病変と HLA の相関)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 小 野 啓 郎 (副査) 教 授 岡 田 伸 太 郎 教 授 越 智 隆 弘

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

成人の慢性関節リウマチの発症および関節病変と、ヒト主要組織適合抗原である HLA との相関については幾つかの報告がみられる。しかし若年性関節リウマチ (JRA) については各サブタイプと HLA class 1 抗原 (A, B, C) との報告は多いが, class 2 抗原 (DR) に関する報告は少なく, また関節病変との相関に言及しているものはみられない。今回 JRA の関節病変および関節炎の進展, 遷延化と HLA-DR のある特定のタイプとの間に相関が認められたので報告する。

【対象ならびに方法】

96名の JRA 患者 (罹病期間 4 年以上, 平均 15.9 年) の発症型, 調査時病型, 頸椎 (78 名) および股関節 (95 名) のレントゲン変化について調査した。

HLA タイピングは通常血清学的方法にて行い, class 1, class 2, の各タイプと関節炎の進展, 頸椎病変, 股関節病変との相関について統計処理を行った。

【結果】

HLA の class 1 抗原 (A, B, C) は JRA の発症型, 調査時病型, 頸椎病変, 股関節病変のいずれについても相関関係を認めなかった。

class 2 抗原の DR については, ある特定のタイプと JRA の関節病変との間に有意の相関が認められた。すなわち, 関節炎全体の進展との関連では, DR4 (+) 患者では 82.6% が発症型にかかわらず多関節炎に進展するが, DR4 (-) 患者では 57.1% にすぎず, 一方, DR2 (+) 患者では 60% が寛解するのに対し, DR4 (+) 患者では寛解者はみられない。

頸椎病変としては, 成人 RA と共通の病変である環軸椎亜脱臼 (AAS) を有する患者では DR4 が 83% に陽性であるが, JRA に特異的な後方関節強直 (AAPJ) を呈する患者では 29%, 頸椎病変を認めない患者では 10% に陽性であるにすぎない。一方, DRw8 は 3 群でそれぞれ 25%, 57%, 30% の頻度であった。すなわち AAS とは DR4 が, AAPJ とは DRw8 とが密接な相関関係を示した。

股関節病変としては, 成人 RA と共通の病変である中心性脱臼 (RALC) を有する患者では DR4 が 67% に陽性であるが, JRA に特異的な臼蓋形成不全様変化 (DALC) を呈する患者では 50%, 股関節病変を認めない患者では 45%

で陽性であった。一方、DRw8は3群でそれぞれ33%、67%、18%の頻度であった。すなわち RALC とは DR4 が、DALC とは DRw8 とが密接な相関関係を示した。

以上のことから、DRw8はJRAの特異的な関節病変に、DR4はRAとの共通する関節病変および多関節炎への進展、遷延化に、DR2は関節炎の鎮静化に関与していると考えられる。

【総括】

JRAにおける関節病変とHLAの関連について調査した。class 1抗原については、従来いわれた B27ばかりでなく、いずれの抗原においても関連が認められなかった。class 2抗原については、DR4は関節炎全体としての増悪、進展と有意に相関し、DR2は寛解と相関していた。また頸椎および股関節病変に関しては、DR4はJRAにおいて認められる成人RAと同様の関節病変と関連し、DRw8はJRA独特の関節病変と関連が認められ、JRAにおいては複数の遺伝的素因が関節病変に関与していることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

若年性関節リウマチにおける頸椎および股関節の関節病変を、成人の慢性関節リウマチと共通して認められるものと、若年性関節リウマチに特異的に認められるものとに分類し、前者がHLA-DR4と相関し、後者がHLA-DRw8と相関することを示した初めての報告である。さらにHLA-DR4は多発関節炎への進展、遷延化に、HLA-DR2は関節炎の寛解にそれぞれ相関することを示した。HLA-DRとの相関関係を通して、若年性関節リウマチの関節炎全体としての転帰のみならず、個々の関節病変の発現にも内因が関与していることを示唆した初めての報告であり、学位に値するものと認める。